

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ニュースポーツ推進事業
事業主体 (連絡先)	青木村 0268 - 49 - 0111
事業区分	保健、医療、福祉の充実、教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,415,146 円 (うち支援金： 1,104,000 円)

事業内容

運動不足の解消及び健康増進を目的として、幅広い年代が楽しめる「ニュースポーツ」の用具を整備し、スポーツ大会等を開催した。

- ①「上小スポーツレクリエーション祭 2018 秋の部
あおきむらで遊ぼう！」
子どもを中心に、ストライクボード・スマイルボウリング体験コーナーを体験
- ②「平成30年度 ヤンレ！さわやか秋季ニュースポーツ祭」
囲碁ボール、スマイルボウリングを使って12分館対抗のスポーツ大会を開催
- ③「ニュースポーツ体験」
小学生とその保護者で囲碁ボールを体験。スポーツ推進委員がルール説明、審判を行い補助した。
- ④「太鼓でドンドン♪脳トレ」
60代から90代までの高齢者を対象にして、認知症予防を目的とした太鼓を使った脳トレを開催



【「ニュースポーツ体験」
囲碁ボールの様子】

【目標・ねらい】

- 子ども
- ①ボールの投げ方の習得
 - ②遊びを通して運動能力を育成する
- 大人
- ①運動不足の解消
 - ②地域との交流

事業効果

- ①ストライクボードコーナーではうまくボールを投げられない子にスポーツ推進委員が指導したところ、ボールの飛距離が伸びたり、的を狙うことができるようになった子どもが多く見られた。スマイルボウリングコーナーではボウリング場とは違う感覚であるが身近に楽しめるということもあり、大人も子供も一緒に楽しんでいた。
- ②参加者の運動不足解消、健康増進につながる良い機会となった。また、村内の良い交流の場となった。
- ③小学生にとっては普段、体験する機会が少ないスポーツだったが保護者と一緒になって楽しんだ。親子の良い交流の場となった。
- ④月に1回の楽しみ、交流の場ともなり、生きがいづくりの場にもなった。

※自己評価【 A 】

【理由】

イベントを行う中で子どもたちはボールの投げ方を習得しとても上達した。また、友達との関わりや協力する力も身に付けることができた。

大人には運動する機会を提供し、とても楽しんでもらえた。地域のふれ合いも見られた。

今後の取り組み

購入した備品は村内の方を中心に貸し出しをし、様々な場で活用していただく。
事業終了後も、問い合わせや使用団体が多く、現在も広く活用されている。
必要に応じてスポーツ推進委員など指導者を派遣していく。
学校現場と連携して必要に応じて貸し出しや指導に活用する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	東信州広域連携による次世代産業創出事業
事業主体 (連絡先)	東信州次世代産業振興協議会 (0268-23-5396)
事業区分	(6)その他の地域の特色及び個性を活かした産業振興並びに雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,000,126 円 (うち支援金 : 2,400,000 円)

事業内容

『地域間取引を拡大する企業間のビジネスマッチングの創出』や『次世代産業を生み出す分野別研究会(開発プロジェクト)の立ち上げ、企業間連携による具体的な事案に対する事業化検証、試作開発、実証実験等』を行うことを最終目的とした基盤づくりを進めるための事業として、次の事業を実施した。

- (1) 産学・産産連携を核とした研究開発支援事業
分野別講演会、技術展示会、市場マーケティング調査等
- (2) 企業の経営力強化・グローバル人材育成に向けた人材育成セミナー事業
ビジネス英語講座、IT導入補助金活用セミナー
- (3) 地域内ネットワーク強化事業
経営者向けトップセミナー、先進地見学会

事業効果

- ①分野別講演会やものづくりパートナーフォーラム等を通じて、次世代成長産業の創出に向けた研究会や具体的な開発プロジェクトを進めていく上で必要な製品開発型企業のコア技術及び共通課題等について習得することができた。また、企業同士のマッチングによる産産連携を促進することができた。
- ②産学官連携等によって11件の開発プロジェクト案件が集まり、市場マーケティング調査を実施することで、プロジェクトの市場性・実現可能性を精査し2件のプロジェクトを立ち上げることができた。
- ③ビジネス英語講座、IT導入補助金活用セミナー等を通じて企業経営力向上や生産性向上促進に向けた取組を推進することができた。

今後の取り組み

地域企業の活性化による企業収益増、雇用拡大はもとより、ヒアリング結果に基づく企業課題の解決や平成30年度から平成34年度までを期間とする東信州次世代イノベーションプランの具現化に向けて、エリア内企業同士のマッチング促進を図ることで、次世代産業創出に向けた開発プロジェクトを立ち上げ、具体的な事案に対する事業化検証、試作開発、実証実験等を段階的に進め、東信州地域の次世代産業の創出・振興を図る取組を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【第12回ものづくりパートナーフォーラム】

【目標・ねらい】

- ①産学官連携による地域内での次世代産業創出
- ②次世代産業創出にむけた開発プロジェクト立ち上げ
- ③地域内企業の競争力向上に向けた取組を推進

※自己評価【B】

【理由】
事業計画で予定していた各種事業がほぼ計画的に実施でき、次世代産業創出に向けた産産連携や企業力強化等を促進することができた。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	重文常田館製糸場施設活用事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人絹の文化・蚕都常田館 (事務局 小駒はるみ)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	525,708 円 (うち支援金: 420,000 円)

事業内容

「重文常田館製糸場」公開の管理団体です。

- 1 上田歴史周遊拠点にふさわしい受入れ体制づくり
(施設整備として) 高齢者向けに休憩用椅子 10 脚
丸椅子座布団カバー22 枚 館内案内板 4 台
案内所テント 4 基ベンチ 2 台/集合写真整列兼用 等
- 2 蚕都上田体験型動態展示の実現とボランティア育成
糸から織りまで～うちおり連続講座(実演編 6 回 体験編
2 回) 出前蚕糸講座学校 2 授業 その他 2 団体
素材繭の活用提案(高校イベント、市民サークル)
- 3 製糸場案内「蚕都上田及び近代化産業遺産について」
これまでの取組みをまとめた資料 4 頁 1500 部を制作



【糸から織りまで体験講座】

【目標・ねらい】

- 1 受入れ体制作り、来場者の誘導
- 2 「蚕都上田」体験型動態展示
- 3 「蚕都上田および近代化産業遺産について」広報活動

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1 施設設備の整備により誰もが落ち着いて利用しやすい施設となりました。テントは障がい者の社会活動支援スペースとしても活用しています。
- 2 来場者に周遊型団体観光から個人やグループ研修への変化が見られます。糸から織りまでの一貫した蚕糸技術の動態は、多様な見学者の知識欲に応え、郷土の産業をより深く知る上でも資料性の高い展示となりました。一方、学校等に学習教材として繭の魅力を紹介。小中高それぞれ反響があって出前授業が採用されたり、繭をあしらった生徒作品が全県イベントで注目されたり市民団体の作品が入賞したりしました。
- 3 蚕糸文化の伝承活動を事例として周知できました。

※自己評価【B】

【理由】当法人の取組みは主に ①旧製糸場施設の公開 ②館内企画 ③外部団体への繭素材の活用提案 です。結果的にかなりの成果となりましたが、団体受入が当初見込みを下回りました。一方で問合せは確実に増えているので地域の蚕糸文化発信拠点として引き続き活動をしてゆきます。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

大河ドラマ観光が一段落し、団体周遊型から産業遺産そのものを目的とした生涯学習グループと個人見学者の割合が増加しています。支援金では、昨年度は多人数の来場者用の対応を、今年度はより細やかに高齢者などへの備えと展示内容の充実を目指しました。今後は整った施設を武器に蚕糸文化の裾野を一層広げてゆくため「楽しみながら」蚕糸素材に親しむことのできるソフト事業をピックアップしてゆきます。繭クラフトや蚕糸業にかかわりの深い「猫」をモチーフにした作品はすでに人気が高いので、関連の展示会と講習会を展開する計画です。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田まちなかイタリア交流促進事業
事業主体 (連絡先)	上田商工会議所 長野県上田市大手 1-10-22 TEL : 0268-22-4500
事業区分	(6) エ 商業の振興 (3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード事業
総事業費	2,839,583 円 (うち支援金 : 2,063,000 円)

事業内容

- ①2019年ラグビーワールドカップ日本開催に伴い、イタリア国代表チームが菅平高原でトレーニングキャンプを実施すること合わせ、中心市街地において歓迎タペストリーやターポリン、懸垂幕等を掲出し、市全体での歓迎ムードの演出と、中心市街地への誘客を図った。
- ②市民等によりイタリアを知ってもらうため、「イタリアを学ぶ連続講座」を5回開催。
 - 第1回 イタリアと日本～遠くて近い国～
 - 第2回 初めてのイタリア語を使いましょう！
 - 第3回 旅して出会ったおいしいイタリア ～ふだん着の料理とワイン～ イタリア式おやつを楽しみながら
 - 第4回 イタリアンモーターのトーク&展示
 - 第5回 イタリアの食材を使ったセミナー (3セミナー)



【第2回イタリアを学ぶ連続講座の様子】

【目標・ねらい】

- ①中心市街地における歓迎機運醸成
- ②中心商店街の誘客と販売促進
- ③イタリアとの文化、芸術、経済等の交流促進に向けた準備

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①タペストリー等を中心市街地に掲出し、ラグビーイタリア国代表チームの歓迎ムードを演出するとともに、市民等に対する啓蒙を図れた。
- ②イタリアを学ぶ連続講座の開催により、市民等がイタリアの文化に親しむ機会を提供できた。
 - 第1回 セミナー 参加者 82名
 - 第2回 イタリア語講座 (2回) 参加者計 84名
 - 第3回 セミナー 参加者 27名
 - 第4回 トーク&展示 参加者 250名
 - 第5回 セミナー (3回) 参加者計 35名 合計 478名
- ③イタリアンイベントや商店街の販促活動に結びついた。

※自己評価【A】

【理由】

タペストリー等の掲示による視覚的な気運醸成と、レパトリーに富んだ各種セミナー等の開催により、多くの市民等がイタリア文化に触れるきっかけとなり、かつ中心市街地への誘客も図れた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ①2019年ラグビーワールドカップ日本開催が来年のため、せっかく市民に根付いてきたイタリア熱を冷ますことなく、次年度においても継続してセミナーやイベント等を中心市街地で開催することで、中心市街地への誘客と賑わい創出、各個店における販促活動に結び付けていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	『別所市場・太陽と大地のマルシェ継続実施と地元の食をテーマとした地域活性化事業』
事業主体 (連絡先)	別所温泉観光協会 0268-38-3510
事業区分	ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,768,210円 (うち支援金: 1,326,000円)

事業内容

○別所市場～太陽と大地のマルシェ～

・別所温泉の中心部旧相染閣跡地にて2日間にわたり開催した。前期と比べ、チラシの配布や折り込みチラシの宣伝もあって市内からの多くの来場者があった。しかしながら天候が悪く、観光客は減少。会場は各農産物や飲食のブースを中心に休憩や飲食ができるようテーブルや椅子を配置。また来場者に楽しんでもらえ滞在時間を増やせるようイベントを行うためにステージを設けた。会場にはお客だけでなく土屋市長始め、行政関係者や農業関係団体のかたも多く訪れた。

【イベント会場の様子】



○農産物・飲食の販売

あさつゆや青木道の駅など多くの出展者が地元産の野菜や農産物加工品を中心に販売。また前期よりも飲食店ブースを増やし滞在できるようにした。地域で取れた農産物や果物だけでなく地元を代表する美味だれやきとりや日本酒、ワイン、パンなども販売された。

【農産物販売の様子】



○食の講習会

・食の啓発のために各分野のプロの講師をお呼びして公演。実際に試飲や試食、実演料理や地元の野草・食材を見せながら具体的に地域の食文化などを伝えることができた。

【講師の方左から】小川康氏・平林葉子氏・横山たか子氏・北沢正和氏とその試食】



(別記様式第12号) (第3の8関係)

【演奏左から green note coaster、
マジシャン Sato、堀口ゆきおと音空間】

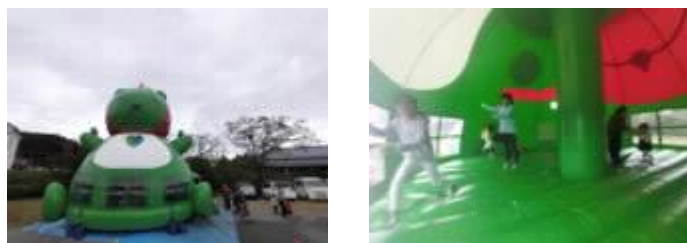
○音楽演奏・パフォーマンス

家族で楽しみ、秋の季節にあった音楽やパフォーマーを呼んでイベントを開催。飲食や買い物だけでなく、イベントとして楽しんでもらうことが出来た。



○子供向け遊具

アルクマのバルーン型ふわふわを用意。特に小さい子連れの家族に喜ばれた。



○宣伝媒体・広報

前期にイベントを象徴的なものを作って印象をつけるためロゴを作成したものをベースに、今期はよりマルシェの中心商品である野菜を強調したデザインとした。チラシは別所温泉区内はもとより、塩田地区や上田市内を中心に配布した。

【宣伝チラシ】



【目標・ねらい】

- ① 前期実施したイベントをより発展的に継続させ、定着させる
- ② 地元農産物や食を通じて多くの観光客と地域住民が来場するイベントを開催
- ③ 別所温泉と塩田平地域の新しい魅力を食の啓発や購買を通じて発掘し、地域と観光客への理解を深める
- ④ 別所温泉の空き地である旧相染閣跡地を活用することで今後の発展的使用を検討

事業効果

前期に続いて2回目を実施できた。農産物や食をテーマとしたマルシェイベントを中心に、農産物を購入だけでなく、食の講演会などを通じて地域農産物や食生活の理解の啓発音楽や体験を通じたイベントとしての厚みを持たせられた。

前期よりも事前の会議を増やし、関係諸団体と打ち合わせや連携を図る様工夫した。

宣伝も早めに実施したことで市内からの来場者が増加。

今後は今回のイベントだけで終わらず、継続はもちろんのこと、お寺や温泉だけでない違った魅力ある街づくりと観光振興をしていくためのきっかけとしていきたい。

※自己評価【C】

【理由】

全体的に必要とされる事業は滞りなく完了し事故や不備がなくイベントが開催できたが、台風により天候が悪く、一部の体験イベントを中止し、また来場者（特に地元客と観光客）が振るわなかった。結果として目標や前期より来場者が減少した。緊急でテントを設置するなど工夫をしたが野外イベントなので、天候の影響が大きいことが課題とされる。

今後はイベントだけでなく来場者をいかに別所温泉内に回遊させるかなども視野に入れて

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	別所温泉の魅力を世界に発信するための外国人集客と受け入れ態勢の整備事業
事業主体 (連絡先)	別所温泉旅館組合 0268-38-2300
事業区分	ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,638,360円 (うち支援金: 1,228,000円)

事業内容

・外国人を受け入れるにあたり、マップと冊子を作成した。別所温泉の外国人を受け入れているゲストハウス施設や地図を作成している方、旅行関係の仕事の方、行政関係、デザイナー他、旅館だけでなく多くの業種の方と連携し様々なアイデアを出しながら作成に携わった。実際の媒体の作成にあたり、イギリス人で在日の大学教授であるベンソン氏に宿泊してもらい、別所温泉の肌で感じた感想や写真撮影を総合的に協力していただいた。



【上：会議の様子 下：ベンソン氏】

事業効果

冊子は実際の外国人の視点を入れた文章や内容のものができ、地図は切り絵風のデザインを採用し田舎感を出しながら外国人が日本人の作成した地図や場所に迷う要因であることを加味し、北を誌面の上にすることや、ストリート名をつけることで町歩きがしやすくなるよう工夫。実際に手に取った外国人からは見やすく良い媒体だという意見や、地域の店舗や施設からは英語ができなくてもこれがあれば大変助かるという声をいただいている。媒体だけではなく実際に外国人の方に宿泊・町歩きしていただいたことでモニターツアーにもなった。

今後の取り組み

今後は、今回作成したツールをきっかけに多くの外国人が訪れ、地域でのコミュニケーションが図れていくようになれば地域がより活性化していくと考えられる。また別所温泉や地域を情報発信していくための営業活動や、映像などの違ったツールの整備を進めていく。上田地域はインバウンドにだいぶ後進であり(年間1万人の宿泊者のみ)その中心の温泉街である別所温泉が先頭に立ち行政と連携しながら努めていきたい。

【目標・ねらい】

- ① インバウンド事業の協議会を立ち上げ、協力して事業を実施する
- ② 外国人の視点に立った媒体の作成
- ③ 日本人向け媒体と差別化した内容での作成
- ④ 別所温泉の外国人向けブランディングの一環

※自己評価【A】

【理由】

予想よりも良い媒体ができたこと、外国人の方に実際滞在してもらえた視点を踏まえたを盛り込めたこと、異業種間で協議ができ、様々な視点を入れられたこと、実際のユーザーから好評であることなど。

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田地域の山の魅力 PR プロジェクト
事業主体 (連絡先)	日本スカイランニング協会 (contact@skyrunning.jp)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	414,998 円 (うち支援金 : 311,000 円)

事業内容

上田市内、菅平等で山のレースや練習会の様子を写真・動画で記録をとり、国内外に向けて信州上田の山の魅力の発信ということで、動画制作及び配信を行った。

(実施スケジュール、場所)

【上田】

- 5月3日 上田バーティカルレース 写真&動画撮影
- 5月4日 上田スカイレース 写真&動画撮影
- 5月4日 後夜祭 (壮行会・参加者や市民との交流会)
- 5月8日 動画①「上田」完成

【菅平】

- 6月9日 真田バーティカル100 動画撮影 (大会主催者より写真提供)
- 6月10日 スカイライントレイル菅平 動画撮影 (大会主催者より写真提供)
- 6月25日 動画②「菅平」完成

【烏帽子・浅間 (上信越高原国立公園エリア)】

- 9月23日 烏帽子バーティカルキロメーター 写真&動画撮影
- 10月10日 動画③「烏帽子」完成

2019年

- 1月12日 動画④「スカイランニングタウン信州上田」完成

事業効果

山の景色を味わってもらえるような動画の配信により、海外のスカイランニング愛好家に信州上田の山の魅力を PR できた。

上記の PR により、当エリアへの誘客を図りました。31年度の大会 (上田バーティカルレース) に海外から個人・団体での参加獲得の見込み (欧米・アジアからの海外勢 10~20 名の見込み。)

今後の取り組み

継続して PR していくことが肝要と考えます。動画は繰り返し使用できるので、各大会の実行委員会に提供し、スカイランニング/トレイルランニング愛好家向けに信州上田地域の山の楽しさを PR することで参加者募集の広報で利用していただきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【大会前のコース整備】

【目標・ねらい】

- ①国内のスポーツ愛好家への信州上田の山の魅力 PR
- ②海外のスカイランニング愛好家への信州上田の山の魅力 PR

※自己評価 【 B 】

【理由】

動画配信により広く PR できた。

平成 30 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	別所線と走ろう、歩こう ラン&ウォーク
事業主体 (連絡先)	別所線と走ろう実行委員会 上田市本郷 109-1 0268-38-3802
事業区分	特色のある観光地づくり
事業タイプ	ソフト/ハード
総事業費	¥3,117,253 円 (うち支援金: ¥962,000 円)

事業内容

- ・別所線の記念日 5 月 25 日にあわせ(直前の土曜日)別所線に沿って行うランニング・ウォーキングイベント開催(5 月 19 日(土)2018)(スタート:上田城址公園、ゴール:別所温泉)
エイドステーション、ゴールでは地域の団体、有志による音楽演奏などを行った。今回で 10 回目の開催。
- ・イベント開催にあわせたランニングツアーの開催(観光、旅館組合と協働)開催日 5 月 20 日(日)2018
- ・塩田平サイクリング、ズンパフィットネスも 19 日に同時開催。
- ・ファインド信州上田プロジェクト
イベント開催を契機に国内外へ PR し、来訪者を増やす活動を行った。案内パンフレットの配布とホームページでの PR の実施。

事業効果

- ・記念すべき第 10 回開催で、500 名が参加。参加者は、約 60%の方々が首都圏をはじめ他地域からであり、リピーターの方も多。
- ・健康・観光ツーリズム活動として着実に実績があがってきた。

今後の取り組み

- ・11 年目を迎え、地域と連動し、健康スポーツツーリズム活動としてさらに充実させていく。
- ・インバウンド観光を目指し、海外へも情報発信していく。
- ・一過性のイベントではなく、滞在型イベントとして発展させていく。



別所線沿線でランニングを楽しむ

む参加者

【目標・ねらい】

- ① 別所線の PR と存続支援
- ② 健康観光イベント開催による地域の活性化。
- ③ 地域との協働による地域振興。

※自己評価【 B 】

【理由】 マンネリ化を防ぐイベント内容の工夫が必要。活動資金の安定化などの課題もある。

(別記様式第12号) (第3の8関係)



平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田なないろ農産物ブランド化事業
事業主体 (連絡先)	上田地産地消推進会議 事務局：上田市農産物マーケティング推進室 (TEL21-0053)
事業区分	(6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,234,164 円 (うち支援金：2,557,000 円)

事業内容

上田市の気候・風土により生産される多種多様で高品質な農産物を『信州上田なないろ農産物』と銘打ち、ブランド化の推進と地産地消の実現を図ることで、遊休荒廃地の解消や農業の担い手を増やすことに繋げる。

今年度は長野県オリジナル米であり、上田市内でも生産される「風さやか」と昨年度事業を発展させた「うえだみどり大根」を中心に、(1)地産地消・食育推進、(2)市民参加・市内イベント展開の取組、(3)ブランド発信・強化の取組を、生産者や市内企業・教育機関等団体と連携を図り実施した。



【風さやか田植時写真】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

■風さやか■

- ・「風さやか」稲作体験 1団体 生徒22名
- ・米についての授業開催 2回 各40名受講
- ・学生レストラン来客数 50名
- ・利き米イベント来場者及び評価収集 52件
- ・上田市産風さやかパンフレット制作及び配布 30,000部
- ・風さやかPRイベント来場者 500名
内アンケートのパンフレット掲載内容有効回答数304
- ・風さやかを使用したメニューPR販売約2ヶ月
期間中利用客数1597名
内土日提供(風さやか提供)食数158食
- ・外食ビジネスウィーク 商談件数45件内継続商談6件
- ・米・食味分析鑑定コンクール出展
出展団体・者数11名(団体)1次選考通過 1団体
(ノミネート者無)
- ・風さやかCM動画
行政チャンネル動画再生回数 342回(1月末時点)

■うえだみどり大根■

- ・農作体験プログラム実施団体 6団体
- ・収穫祭来場者 約500名
- ・うえだみどり大根新規生産者 20名+1団体

【目標・ねらい】

- ①地産地消・食育推進
- ②市民参加市内イベントの展開
- ③ブランド発信・強化

※自己評価【B】

【理由】
事業実施による知名度拡大や生産者増加、今後の事業展開の研究が出来たが、効果目標に満たない事業もあったため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「風さやか」については、制作した動画やパンフレットを活用し、取扱販売店・飲食店等で放映・設置、姉妹都市等への物産展や市内イベントで配布を行い周知を継続する。高校生レストランは次年度も継続し、上田市農産物の一つとして取り上げてもらう。コンクール出品についても、自主事業として出品補助等を検討する。

「うえだみどり大根」については農作体験プログラムを経費計上せず実施ができたことで、今後は生産者組合の自主事業として展開を図る。収穫祭は次年度も継続を計画しているが、今回付与できた知名度をいかし、より上田市産農産物全体を周知できるものとしていく。生産者も多数増加し、生産量・出荷量向上につとめ、上田市農産物の旗印として消費拡大に繋げる活動を行う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子どもアトリエを活用した創造活動プログラム
事業主体 (連絡先)	子どもアトリエ運営委員会 (事務局：上田市立美術館) 0268-27-2300
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,275,174円 (うち支援金：956,000円)

事業内容

上田市立美術館に併設の子どもアトリエでは、アートによる体験を通して「つくるって楽しい」「表現するっておもしろい」を感じながら、子どもたちの自由な発想、新たな創作意欲を引き出すきっかけづくりとなるプログラムを行っています。

美術を難しく考えず、体全体を使って素材に触れて楽しむプログラムや通年・連続した講座で経験を重ね、創造力や表現力を育むプログラム、そして幼稚園・保育園や小学校に来館いただき、普段の園や学校生活では行うことが難しい創作活動を美術館で体験するプログラムなどを実施しながら、子どもたちの考える力や豊かな感性を育みます。



【プログラムの様子】
「なるほど!?美楽」
石から絵の具をつかって
ダンボール洞窟に描こう!

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

新規講座「なるほど!?美楽」やバスを使った受入プログラムの実施を行った結果、昨年同時期と比較し、子どもの参加者数が2,147人から2,416人と269人増加した。特に、保育園や幼稚園を受け入れる団体向けプログラムでは、昨年の16回(11園、1校)396人から42回(37園、5校)1,069人と、より多くの子どもたちに、芸術やアート体験を提供することができた。子どもアトリエでの体験を通して、子どもたちの「楽しかった」という感想はもちろん、保護者の方や先生からも「(子どもが)毎日いろいろなものをつくってして遊ぶようになった」「絵を描くことが楽しくなって、自分で進んで絵を描くようになった」など、肯定的な意見をいただいている。本事業が、今後の子どもたちの創造力を育み、また自主性を促す一助となるよう、取り組みにまい進したい。

【目標・ねらい】

- ①アート体験の場の創出・提供
- ②プログラム体験者の増加
- ③子どもアトリエプログラムのPR
- ④幼稚園・保育園、学校への周知

※自己評価【 A 】

【理由】

新規の講座を立ち上げ、場の創出・提供に努めるとともに、プログラムのPRも行い、参加者の増進につなげることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度の事業によってプログラムの参加者は大幅に増え、子どもたちが芸術やアートに触れ、体験する機会も増進することができた。今後も、様々な機会を提供できるよう努めるとともに、活動を恒常的に続けることができるよう、運営手法の検討や協力者の確保、子どもアトリエに対して、子どもたちや大人がさらに親しみを持ってもらえるような取り組みを進めたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある